

恵下埋立地問題を考えよう！

平成29年5月15日
阿戸の環境を守る山林地主の会

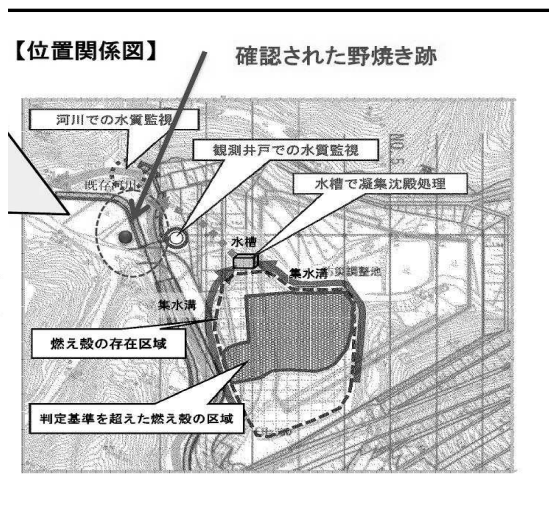
私たちは、広島市の次期最終処分場「恵下埋立地」の整備について、現在の広島市の進め方に不安を感じています。このチラシは、広島市の対応などについて、感じていることを情報発信するものです

住民の指摘でタイヤの燃え殻また発見！

5月3日の中国新聞に「野焼き跡か 燃え殻発見」の記事(⇒)が載ったのをご存知ですか？

昨年の8月に発見されていたタイヤの燃え殻に高濃度ダイオキシン類が含まれていたことは5ヶ月以上も隠していた広島市ですが、今回は4月28日に発見され、5月1日付けで広島市のホームページに公開された模様です。

これほど早く情報公開したのは、私たちが要望してきた結果であると思っています。下の資料は、公表された資料から抜粋したものです。



野焼き跡か 燃え殻発見
広島市処分場 事業区域内
広島市は2日、佐伯区湯来町で建設中の恵下埋立て処分場の事業区域内で野焼き跡と

思われる燃え殻が見つかったと発表した。市は成分分析の結果が分かった後、公表し、適切に処分するという。恵下埋立地建設事務所によると、4月28日に林道との入り口ゲート近くで野焼き跡を採取。その後はブル

気付いた。処分場の敷地からは外れており、広さは約5〜6平方メートル。元は畑とみられる。少量のタイヤの燃え殻もあったという。同事務所は1日、調査のために土壌の一部の土壌の検査をしている。

1シートで覆っている。1カ月程度で分析結果が出る。同処分場を巡っては敷地内で大量の廃タイヤの燃え殻が見つかり、現在も市は敷地内の土壌の検査をしてい

《5月3日中国新聞から》

しかし、この燃え殻を発見したのは水内地区の住民です。恵下谷川に異常な濁水が流れたということで4月26日現地に行き、林道側出入口ゲートのすぐそばで発見し、そのすぐ先では重機等で作業をしていたので、28日に大林組の所長に確認したところ、広島市に報告するということでした。

◆不思議です・・・広島市の担当者も業者も気付かなかったのでしょうか？

広島市は、この燃え殻を野焼き跡だと表現し、事業区域内ではあるが工事区域外であるとしています。しかし、上の広島市が公開した資料(写真①)を見ても、すぐそばには仮囲いがあり、水路改修工のコンクリートが敷設されています。これらの作業をする時に、誰一人としてこの燃え殻に気付かなかったのでしょうか？ 下の写真は4月26日に燃え殻を確認した時のもの(コンクリートブロックの上一帯)で、すぐそばで重機を使って作業していました。

仮囲いや手前のパイプを施設する時に、この燃え殻を踏み、移動させたり撤去していることが考えられます。

もしも、この燃え殻からダイオキシン類が検出されれば、作業員は防塵防毒マスクや密閉型化学防護服を着用しないまま触れていることとなります。これは、環境への影響や地域住民への影響以前に、安全作業上で重大な問題です。

私たちが請願や要望書を提出して、燃え殻の調査やダイオキシン類の処理について意見を述べているのに、その声を無視しているだけでなく、現場で作業する人にまったく伝えていないこととなります。

それは、環境基準値の29倍もの高濃度ダイオキシン類であっても、何の問題もないと考えている広島市の本心ではないでしょうか。



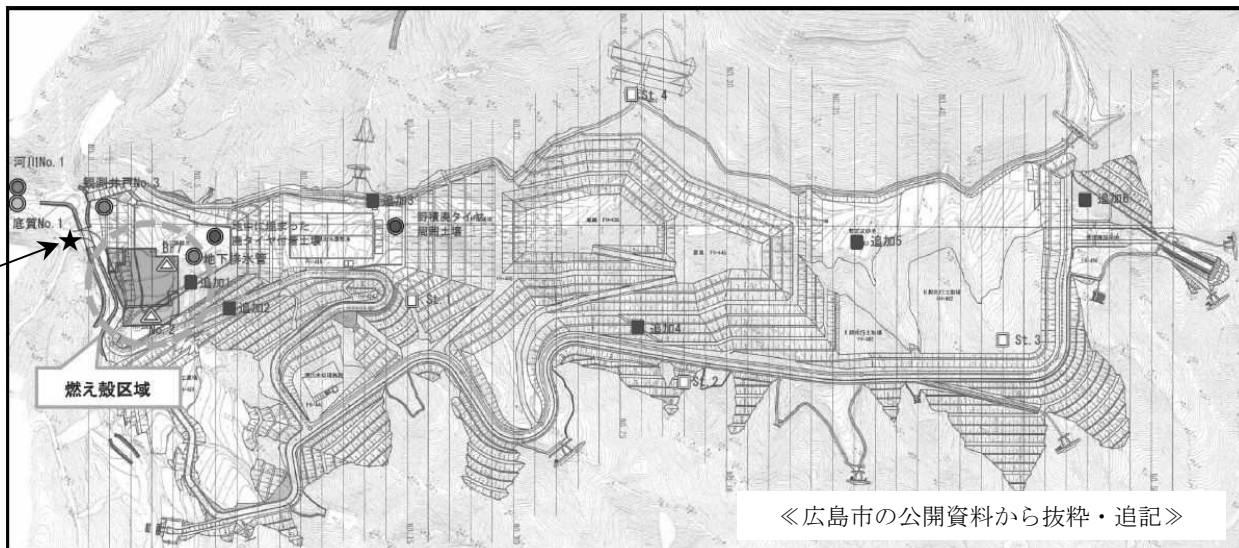
《4月26日、雨の中作業のすぐ傍で燃え殻を確認》

環境影響評価追加調査もポーズ？

私たちは、高濃度ダイオキシン類が発見されて、請願や要望書で埋立地全体の再調査や、第三者委員会の設置を求めてきました。これに対し、広島市は「埋立地内の目視点検で燃え殻は他にない」と回答してきましたが、何もしないのではまずいと思ったのか、「地域住民の皆様の不安の声を受け、事業区域内の環境影響評価で試料採取していない場所の表層土壌について、安全性を再確認するため追加調査を実施し、現在、成分分析中です。結果がわかり次第、公表を行います」として、埋立地内の6箇所を追加調査するとしていました。しかし、今回の状況を見ると、そのポイントは燃え殻のない場所を選んでいないかという疑いとなります。そして、今回は「工事区域外だから問題はない」と言い訳するのではないかとこののは考え過ぎでしょうか？

★ 今回の燃え殻発見場所

■ が追加調査箇所



◆ 道路改良工事の真の目的は何か？

広島市は今年1月19日に水内地区町内会連合会に対して、恵下埋立地で発見されたダイオキシン類の処理について説明したとしていますが、主目的は広島湯来線麦谷2工区（取付道路から新設トンネルの湯来側入り口まで）の工事着工の知らせだったようです。

一方、新設トンネル予定の戸山側入り口の地権者に対して安佐南区役所の地域整備課職員が度々来たり、立木トラスト事務局には名簿の提出を求めてきました。新設トンネル着工の見通しが立たない現状で、恵下埋立地建設事務所が麦谷2工区の工事着工説明をしたのは、住民のための道路改良ではなく、ごみ搬入のためと浸出水放流管ルート確保であることは明らかです。

◆ 広島市が設計した浸出水放流管方式・ルートの根本的な危険性は見直されていません！

昨年12月19日に広島市が戸山学区町内会連合会に示した資料には、現道への放流管を施設するためにポンプ1基が追加され、マンホールは39個も記載されていますが、まだ実施設計はされていません。

私たちはこれまで、新設トンネルルートでの浸出水放流管計画は、多くの技術的な問題や危険があり実現性に疑問があることを指摘してきました。にも関わらず実施設計したところ「実施不可」の結果となり、やむなく見直しましたが根本的な設計はほとんど変わっていないため、危険性はそのままです。

浸出水放流管平面図(案)



《着工する麦谷2工区と浸出水放流管平面図抜粋》

《編集後記》

「官僚の無謬性神話」という怖い話をご存知ですか？ 「謬（びゅう）」とは「誤り」という意味なので、「無謬」とは「誤りがない」ということになります。それは「官僚は間違えない」と信じられているということです。しかし、もっと恐ろしい飛躍は「間違いを認めなければ、間違いにはならない」という嘘のような本当の話がまかり通り、数字をつぎはぎしたり、真実を隠したり、嘘で嘘を塗り固めたり、ありとあらゆる方法で当初の政策を延命させようとするのです。そして「倫理的なこと意外は失敗らしき政策でも一切責任は問われない」というのは、豊洲市場問題や森友学園問題を見ればあきらかです。今の広島市の姿勢に大きな問題を感じていますので、技術的に未熟な設計・施工や不正な行為を正し、税金のムダ使いをなくすように、繰り返し訴え続けていきます。私たちは、ゴミの最終処分場は必要だと思っています。しかし、迷惑施設でもありません。よって、より安全で、地域住民への負担は最小限であるべきです。ご理解とご協力をお願いします。

阿戸の環境を守る山林地主の会 代表：福永博昭